

「行うというピイスティス」

～信仰（神への信頼）は聞いて行うことで成熟する～

ヤコブ2：14～24

信仰とは信じる心を迎えることです。宗教的な言葉ではなく本来は人と人との間でも起こりうることです。創世記にはアダムと神様が信じあう関係であったことが描かれています。その信じあう関係は私たち人間が一番求めていることです。ギリシャ語でピイスティスという言葉は日本語では信仰と訳されますが深い意味では信頼するという概念です。ローマ書には信仰によって救われるのであって行いによるものではないとあり、ヤコブ書には行いのともなわなない信仰は無意味である。と伝えています。矛盾しているようですが矛盾していません。神様を心から信頼する人は行いもともなうのです。神の友と呼ばれたアブラハムは神への捧げものとして愛する息子を求められたとき、神様がそんなことをされる方ではないと信頼していたから命令に従いました。（創世記22）あなたは本当に神様を信頼していますか。行いもともなっているのでしょうか。薬を飲めば治るのに、その薬をありがたやありがたやと言って神棚に置いておくようなことはしていませんか。あなたの人生を変えることのできる神様のみ言葉はいつも与えられています。やってはいけないこと、必ずやらなければならないことを神様は伝えています。それなのに、あなたの自論を優先していませんか。先週一週間、我慢ではなく忍耐できたでしょうか。

■ ①まずは聴く耳

ハリネズミは体にとげをもっているのはなぜでしょう。優しく触れば針を出してきません。ところが、刺激を受けると針を出してきます。それは、自分で自分を守るためです。私たちが心や体に棘を持っているのは、自分で自分を守らなければならなくなったからです。本来、子供は3歳ころまではとげとげしいところはもっていません。しかし、親はその親からやられたように子供に接してしまいます。その子の行為をきちんと話し合わなければならないのに、結果だけを見て、結果を攻めてしまいます。神様が伝えたいのは、治ることと病気にかからないことを伝えたいのです。そのために神様は旧約聖書と新約聖書をあたえました。私たち踏み外さないことと元に戻ることを伝えたいのです。私たちは結果主義なので、神様がせよと言ったことは聴きたくありません。目線がずれています。あなたが見ているところはどこかよく見てください。結果をみていませんか。結果ではなくプロセス重視なら、何が悪くてこの結果になったのか見て、そこだけ直します。そうすれば早く良くなります。（ヘブル3：7～19）イスラエルの民は心をかたくなにし、神様を信頼せず約束の地に入れませんでした。神様に信頼する人はその信頼する人との約束を守ろうとします。その約束は、あなたがあなたで生きるという約束です。

■ ②意地でも でも行う

神様がせよと言っていることは一人一人違います。ある人には怒るな、ある人には従え、聞け、しゃべるな、逃げるな、あきらめるな、あきらめろ。と様々

です。意地でもやり続けたら少しずつ変わっていきます。毎週教会に来るのはあなたが、あなたの姿で意地でもやり遂げるためにあなたの心を直すためです。（マタイ7：21～25）神様があなたにせよと言われたことは意地でも行わないといけません。

■ ③我慢をやめて収穫のために忍耐へ

アルベルト シュバイツァー 20歳まで親が決めた道を我慢をしていきっていました。そして、20歳の時あなたのためにあなたを生きるならそれを失うが、あなたがあなたを失うなら、あなたはそれを得る。この御言葉によって人生の目的を得ました。30で医者になり、40ですべてを捨てて、アフリカへ戦争で傷ついた子供たちを助けるためにいきました。しかし、第一次世界大戦が勃発してアフリカにいれなくなってしまいました。音楽で身を支え終戦後再びアフリカにもどり、活躍しノーベル平和賞を授与されました。我慢は人を見下して、理由もわからず、仕方なく相手に我慢しているのです。しかし、忍耐はなぜそうになっているのかを理解してその人と向き合うことです。我慢が、私たちの心から取り去られるなら人生が変えられていきます。彼も我慢していたころにはわからなかった人生のも人生の目的が与えられたとき忍耐にかえられたのです。彼が残した言葉です。

■ 肉体よりも心を滅ぼすことを恐れるべきである

物事に興味がなくなりまじめさやあこがれ情熱、熱意などが少しでも失いかけているとことに少しでも気づいたなら、これは病気の前触れだと考えなければならない。表面的に流されている生活に魂が苦しんでいると気づかなければならない。

私たちの人生の中で、「何だったのだろう？」ともうことがあると思います。もし、あなたが神様に聴いて意地でもそれを行うならその意味が成り立ちます。しかし、行わないのなら、無駄になります。あなたは神様からせよと言われたことをやっているのでしょうか。そして、今幸せでなければ将来、幸せにはなれません。幸せということはあなたが、あなたであることを理解するということです。あなたが神様にどう創られ、何のために存在するのかを理解した人は今のあなたの存在のなかで、幸せを見出すことができますが、そうでないと不安にさいなまれ自分の価値を否定してしまいます。神様はあなたにできるように創りました。あなたをできなくさせているのはあなたです。あなたを否定しているのはあなたです。神様はそんなあなたをもう一度回復させたいと願っています。なぜそうなったかは神様がご存じです。あなたに関わった人があなたを傷つけたからです。その過去を降ろしましょう。そして、神様に信頼して意地でも行う信仰を、やり遂げていただきたいと思います。

（要約者：澤口 明子）

（9月25日）